

学生大使 実施報告書

氏名:坂上美穂

学部・学科(コース)・学年:農学部食料生命環境学科 1 年

派遣先大学:ガジヤマダ大学

派遣期間:2025/02/26~2025/03/12

1 日本語教室での活動内容

平日に1日2回、90分ずつの授業を行った。初回のクラスは私たち日本人学生全員が全体の前で簡単な自己紹介をしてから始まり、それ以降は日本人 1~2 人に対して数人の現地学生からなる少人数のグループを作って授業を行った。現地学生をグループに分ける際、おおまかに、「ひらがな・カタカナ」「文法・会話」「漢字」という3つのカテゴリーを設定して同じ内容を学ぶ学生同士で少人数グループを作り、最初の数日間はその数に応じて無作為に日本人学生を配置した。毎回担当する内容が異なり、事前に準備した資料を毎回使うことができたわけではなかったため、現地で資料を追加・修正したり資料がなくても対応する方法を考えたりし、すべての学生が楽しんで日本語を学ぶことができるよう努めた。途中話し合いをした結果、それぞれが担当する内容をある程度決め現地学生の参加状況に応じて適当に人数調整することにした。

この後、私は「ひらがな・カタカナ」を担当した。初めにそれぞれの現地学生のレベルを確かめてから、子音と母音の組み合わせ、文字の書き方、単語、人称代名詞、文型、文章、の順に教えた。少人数のグループで行ったため、それぞれの理解度を把握しそれに合わせて教えるスピードや方法を変えたりすることができた。また、担当を決めることで自分も分かりやすく伝える方法などを習得することができよりよいクラスになったと思う。

授業の終わりには感謝の気持ちを込めて日本から持って行ったお菓子を渡したり写真を撮ったりし、交友を深めた。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室以外の時間は、9 人のバディたちとその友達など、多くの現地人とともに過ごした。朝起きてから夜寝るまで、必ず彼らが近くにいてくれて、寝るとき以外の時間をすべて彼らとともに過ごした。休日はボロブドゥール遺跡や動物園などの観光名所に、平日の放課後には現地のスーパーやコンビニ、ショッピングモールなどに連れて行ってくれ、私たち日本人の要求にもすべて応えてくれた。食事の際には、それぞれのメニューやおすすめについて詳しく説明してくれた。私たちが宿泊した WISMA KAGAMA のロビーにはいくつかのローテーブルとソファがあり、そこで一緒にカードゲームをしたり持ち寄ったお菓子を食べたりした。日本から持って行ったお菓子も喜んでくれ、楽しい時間を過ごすことができた。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私はこのプログラムに参加するにあたって、国際的な感覚を得ること、リアルな食事情を実際に見て

学び今後につなげること、のふたつを目標として掲げた。多くの国民がムスリムであるインドネシアでの宗教への感覚や、交通状況・安全に対する意識など、日本とは大きく異なる生活・習慣に触れ、日本で生活していた中での常識が覆された。食事情に関しては、衛生状態が整えられていない状況で提供される食事を目の当たりにし、その状況に対する感覚の違いにも気づかされた。湿った気候によって、私が持って行った食べ物や現地で購入した食べ物もすぐにかびてしまい、こうした状況からも現地の衛生環境・食事情について考えさせられる点は多かった。これらのことから、参加目標を十分に達成することができたと思う。また、日常的に英語を話す状況に置かれ自分の英語力の低さを痛感したが、初めのころ持っていた英語を話すことに対する不安やためらいを徐々になくし積極的に話すことができるよう努力した。

4 プログラムに参加した感想

まず、このプログラムに参加して本当に良かった。正直4日目、5日目あたりが精神的・一番きつく、もう満足した、と感じていたが、一週間たったあたりからは時間が過ぎるのが惜しく感じるようになった。

この2週間、毎日が刺激的で学ぶことが本当に多く、感謝ばかりの日々だった。今回関わったほとんどの人がムスリムで、彼らは決まった時間にお祈りをしに行っていた。また今回の滞在期間はちょうどラマダンの時期とかぶっておりほとんどの現地人が断食していた。このように、生活環境や習慣、常識などは大きく異なり今まで私が見たことのない光景が広がっていたが、人との関わり方や温かさなど人として普遍的なものも強く感じた。いつも話して楽しませてくれた。私が体調を崩したときには心配してくれ、その後も体調を気にかけてくれた。私たちが使ったものを当たり前のように片付けてくれた。私は渡航前、言語や人間関係、環境の変化についての不安がとても大きかったが、インドネシア人の優しさや温かさ、気遣いによって、つたない英語でも楽しくコミュニケーションをとることができたし、慣れない環境下でも楽しく過ごすことができた。毎日私たちのために考えて動いてくれたこと、本当に感謝の気持ちでいっぱいだ。またインドネシアに絶対に行きたいと思う2週間だった。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回の経験を通して、自分の英語力の低さを痛感した。今までそのような環境で過ごしたことがあまりなかった中で日常的に英語を話す環境に置かれ、意外と話せないことに気づかされた。書いたり想像したりすることはできても実際にその状況になったら言葉が出てこなかったり単語が分からなかったりした。このような経験を踏まえ、今後英語力を鍛えたいと感じた。単語の知識を増やすことはもちろん、声に出して話す機会がないとその状況になった時に対応できないと感じたため、外国人の先生や留学生と話す機会があれば積極的に話し、そのような機会がなくても毎日英文を声に出して読むなど、自分にできる最大限のことをして英語力を鍛えたい。

また、今回現地の食事情を実際に目にし、海外や食に対する関心がさらに深まった。実際に現地に行くことで、今まで持っていたイメージと違い固定観念にとらわれていたと感じるなど、食生活について新たな発見が多かった。私は将来世界の食に関する仕事や活動に携わりたいと考えているため、今後、他の国や地域にも行って各地のリアルな食事情に触れたいと感じた。

6 現地での活動写真

写真1

日本語教室



写真2

ボロブドゥール遺跡



写真 3

インドネシア料理



写真 4

スーパーマーケットの南国フルーツ

